

字である。

この人は越後新発田藩の家老の息子で、若い時、女性関係で相手方を切り、主家を退散して浪々の身となったという。女というのは妻の由伊であろう。若い男は、江花の継立所(問屋のような仕事をした)に逗留した。

継立所の主人賢治(私の祖父)は、義侠心に富んで、多くの人の世話をするのが好きで、二人の話を聴いて

二人を江花に住まわせた。新之助は村人に学問や手習いを教え、妻由伊は娘たちにお針(裁縫)や行儀作法などを教えて暮した。私の父、莊作(後県会議員)もこの人に学問を習って成長した。

由伊は長生きして、越後婆様と呼ばれ、村人から親しまれた。二人の間には、子どもはなく、子孫は残っていない。妻、由伊の一族の亀井美也鉄と言う人が墓碑を建てた。

(話者 森岡賢作)

後藤新平の少年時代

大正時代の政治家、後藤新平は、時の内務大臣に任ぜられ、関東大震災の直後は、東京市長として、

築都新之助の墓

